

# 団体加盟5団体連絡会を始動

## 日遊協、新流通制度の課題など協議

日本遊技関連事業協会（日遊協、会長・庄司孝輝氏）は21日、東京都中央区の本部会議室で理事会後の定例記者会見を開催。6月の総会で団体として加入した5つの組合・団体において連絡会による情報交換がスタートした旨、報告した。

団体加盟5団体連絡会は、日本遊技機工業組合（日工組、理事長・金沢全求氏）、日本電動式遊技機工業協同組合（日電協、理事長・佐野慎一氏）、全国遊技機商業協同組合連合会（全商協、会長・中村昌勇氏）、回胴式遊技機商業協同組

合（回胴遊商、理事長・伊豆正則氏）、日本遊技産業経営者同友会（同友会、代表理事・東野昌一氏）で構成。各組合・団体の代表者が、遊技業界が抱える問題について忌憚なく協議する場として、11日に初会合をスタートさせた。初回は、スムーズな遊技機市場のシフトに向けた方法論や、4月1日からスタートしている遊技機の新流通制度に関連した課題検討などが行われたという。

一方、「ちょいパチ」に関する報告も聞かれた。

「ちょいパチ」とは大当たり

確率が40分の1よりも甘く、ヘソ賞球が5個以上と、短時間でもパチンコの楽しさを体感できる手軽で身近な遊技機で、現在テスト導入の段階にある。経緯としては、日工組が中心となりテスト導入店を6月に募集し、「1機種2台以上」「1店8台以上のコーナー」「4円ぱちんことして運用」でスタート。現在、ちょいパチ事務局によるホームページ運営を含め、情報公開に努めている段階とのこと。なお、ちょいパチ第3弾の機種が登場する8月には、導入店は百数十店規模になる見通し。

（ニュース提供・LOGOS×娯楽産業）

# ユニバーサルとサミー、フェス開催

## ピックアップ

ユニバーサルエンターテインメント（東京都江東区、以下ユニバーサル）とサミー（東京都豊島区）は24日、東京都江東区の東京ビッグサイトで「ユニバーサルカーニバル×サミーフェスティバル2016」を開催。午前11時の開演からラストの午後6時までに集まった参加者は、エンドユーザーを中心に1万6500人を数えた（入場は無料）。

ユニバーサルは2012年に「ユニバーサルフェスティバル」を、13年と15年には「ユニバーサルカーニバル」を単独で実施してきたが、今回開かれた「ユニバーサルカーニバル2016」には、サミーが「サミーフェスティバル2016」として参戦。両社でイベントを盛り上げた。

なお、6月18日には、東京都港区の恵比寿 ザ・ガーデンルームで開かれたサミー主催「サミーファンへ贈る、新感覚音楽体感ライブエンターテインメント「MAX BEAT!! -Sammy Sound Fes-」第2弾」にユニバーサルが登場。両



当日は1万6500人が訪れた

社の人気遊技機の映像と楽曲をクラブさながらの迫力満点の演出でプロデュースし、招待した300人（抽選により当選）のファンを魅了した。

当日は、ファン雑誌の人気ライターや漫画家などが総勢100人を超えて出演。大小いくつものステージや会場内のブースで多種多様にイベントを展開し参加者を盛り上げた。

来場者がステージで、ライターにアテンドされながら打つイベントには長蛇の列ができたほか、特設リングではプロレスも開催。サミーのキャラクター「エイリヤん」とユニバーサルのキャラクター「ハーデス」にふんしたレスラーが、辻よしなり氏の実況のもとコミカルかつ勇敢に戦い、会場を沸かせた。また、合同展示会でもあるため、場内にはユニバーサルとサ

ミー両社の歴代の機種も勢ぞろい。加えて、未販売の新機種も両社ともに多数設置し、事前に申し込んで抽せんに入った人が試打できるなど、来場者の高い関心を集めた。これらのほか、会場内には「北斗の拳」の黒王号と「ハーデス」の巨大フィギュアも展示され、記念撮影をする人々でにぎわうとともに、両社の物販ブースを設置。長蛇の列で待ち時間が1時間を超える盛況を見せた。

来場者の多くは、パチンコホール内で見かける客層よりも若い印象（20～30代に見える人々がボリュームゾーン）で、女性参加者の比率も低くはなかった。「若年層ファンの拡大」を掲げる遊技業界だが、大手メーカー2社の垣根を越えた試みに端を発し、低迷する市場に風穴が開くことが期待される。

## 業界団体だより

### 夏本番を前に各地で海外清掃ボランティア

回胴式遊技機商業協同組合（回胴遊商、理事長・伊豆正則氏）の中部・北陸支部（支部長・木原賢氏）は15日、社会貢献活動の一環として、愛知県知多郡・千鳥ヶ浜の海岸清掃活動を実施。支部組合員ら47人が参加した。

回胴遊商の中部・北陸支部では、地域に密着した環境保全活

動として2009年からこの取り組みに着手。また、14年7月からは中部遊技機商業協同組合（理事長・林和宏氏）と合同で実施し、今年も同組合から約30人が参加した。

当日は、炎天下で汗を流しながら、ペットボトルやゴミ類、たばこの吸い殻などを収集。千鳥ヶ浜は6月26日に海開きをし

ており、大きなゴミ袋で4個のゴミを回収した。

一方、九州遊技機商業協同組合（理事長・山本龍彦氏）は9日、福岡県糸島市の深江海岸で社会貢献・環境対策委員会による海岸清掃活動を実施。組合員や社員、その家族も含めた30社150人の参加者が汗を流した。今回は海開きの前に実施。合計

## 遊技産業の視点 Weekly View

岸本 正一



ホールマーケティングコンサルタント LOGOSプロジェクト上級研究員

パチンコ遊技における時間あたりの消費金額を抑制しようとする昨今の動きは、行き過ぎた射幸性が多くのファン喪失を招いたとの反省から、その効果が期待される場所である。しかしながら、筆者はファン喪失のもう一つの大きな原因は別の部分にあるとみている。それは「長時間遊技の常態化」である。

現在のパチンコは、30分や1時間という「時間つぶし」としての娯楽の適性を欠いている。射幸性を追い求めたが故に、（最終的な）大量出玉獲得を優先して開発された多くの遊技機は、長時間遊技してこそ、その迫力や面白さを堪能できる仕組みとなっている。これは、行政が掲げた「時間消費型」というレジャーの性質を強調した弊害ともいえるだろう。

一方、スマホのスケジュール管理機能がいくら進歩したからといって、世の中から「時間つぶし」に対するニーズが減少することはない。むしろ、合理的な時間管理をすればするほど、持て余す時間が増えている可能性すらある。本来なら、このような「時間つぶし」へのニーズをパチンコが引き受けることができたはず。それができなかったために、消費者は漫画喫茶・インターネットカフェ、あるいはセルフ式コーヒーショップなどにその場を求めている。

そこで提言したいのは、潜在的短時間プレーヤーの再発掘作業だ。30分や1時間の「時間つぶし」に最適な遊技機を開発し、短時間で手軽に誰もが遊ぶことのできるパチンココーナーを1通路でもよいから設置していく。マーケティングという観点からは、この取り組みに業界で統一したネーミングを行い、一般に訴求していくことも必要だろう。

パチンコホールは「長距離客狙いのタクシー」を目指してはいけない。ワンメーターの乗車客からも安心して利用してもらうことが、利用者増加の第一歩だ。そう考えたとき、業界にはまだまだ改善できる余地が多く残っている。まずは、大衆娯楽への回帰実現のためにも、消費金額の抑制のみならず、短時間遊技への適応を期待したい。



きしもと・しょういち 1963年生まれ。元SEの経験を生かし、遊技場の集客メカニズムを論理的に整理・研究する傍ら、全国のパチンコホールを対象にコンサルティングを行う。雑誌への連載やテキストの出版、セミナーでの講演なども手掛ける。オベーション代表。

### 写真にスマホをかざしてください



紙面連動アプリ「メディアトリガーplus」（無料）を起動、コンテンツ一覧から「かざす」をタップ。マークのついた写真を取り込むと、関連した情報サイトが閲覧できます。iPhone、Androidいずれもご利用可能です（一部対応しない機種があります）。

- ※メディアトリガーplusの注意点
- ・本サービスはGPSデータを含むアクセス情報を取得しています。
- ・携帯電話回線を使っている通信費用はご利用者の負担になります。



千鳥ヶ浜の海岸清掃。今年は海開き後に実施。60袋のゴミが回収できた。活動は、今後も多種多様な形で地域ニーズに即した社会貢献積極的に取り組まれていく。